

●講演「腹部のがんについて」

射水市民病院 内科部長 堀 幹夫

現在、日本人のおよそ2人に1人、約半数の人が生涯のうちのがんにかかると言われてい
ます。そして、死因の第一位は がん による死亡です。がんによる死亡割合は全体の28.
7%で、2位の心臓病の約2倍。3位の肺炎の約3倍、脳卒中の約3倍となっています。
こうしたことから、がんによる死亡は、とても身近なものに感じられます。

講演では、「腹部のがんについて」と題し、いわゆる消化器分野のがんについてご説明いた
します。総論では、食道がん・胃癌・大腸がん・肝臓がん・胆道がん・すい臓がんについて、
各論では、上記のがんに対する疫学、頻度、危険因子、診断法、治療法などをお話させてい
たいただきます。

最後に、がんを防ぐための9か条、がんで死なないための3か条をご紹介します。

●講演「当科で行っているキズの小さな手術～腹腔鏡手術について～」

射水市民病院 外科部長 土屋 康紀

射水市民病院で外科を担当しております土屋 康紀（つちや やすのり）です。「地元の病
院でより良い治療が受けられるように！」をモットーに射水市の医療に貢献できるよう頑張
っております。

特に、当科ではカメラを用いた精密で傷の小さな手術＝腹腔鏡手術に力を入れています。
例えば大腸の腹腔鏡手術の場合、傷はカメラや器具を通す穴と腸を取り出す3～5cmの小
さい傷のみとなります。術後の痛みが軽減され、回復が早いだけではなく（大腸手術の場合、
術後7～10日弱で退院可能）、カメラでよく見えるので非常に正確な手術が可能です。当科
ではこのような腹腔鏡手術を胃手術、ソケイヘルニア（脱腸）手術、胆嚢手術、虫垂炎・腸
閉塞手術にも対応しています。体力に自信がない高齢な方はもちろん、働きざかりの方にも
おすすめしたい治療です。

●特別講演「増加する膵がん～診断と最新の治療～」

富山大学大学院 消化器・腫瘍・総合外科教授 藤井 努先生

数年前までは、膵癌に対する有効な治療は外科手術だけでしたが、再発率が極めて高く、
まさに「不治の病」でした。ここ数年の新しい化学療法薬の登場により、膵癌の治療は大き
く変わり始めています。診断時の切除不能膵癌は、従来は緩和医療しか選択できませんで
したが、今では、数か月の集学的治療後の外科切除（Conversion手術）により、予後が大きく
改善するという報告が多くなされてきています。

治療だけでなく、診断も非常に重要です。早期発見には専門的手技・診断が必要です。こ
れからの、富山大学の新しい膵癌診療についてご紹介したいと思います。